

**行政によるデータ活用：
「地域が自らデザインする地域の交通」
のために**

○地方公共団体による「地域公共交通計画」(マスタープラン)の作成

- ・地方公共団体による地域公共交通計画(マスタープラン)の作成を**努力義務化**
⇒国が予算・ノウハウ面の支援を行うことで、地域における取組を更に促進（作成経費を補助 ※予算関連）
- ・従来の公共交通サービスに加え、**地域の多様な輸送資源(自家用有償旅客運送、福祉輸送、スクールバス等)も計画に位置付け**
⇒バス・タクシー等の公共交通機関をフル活用した上で、地域の移動ニーズにきめ細やかに対応（情報基盤の整備・活用やキャッシュレス化の推進にも配慮）
- ・定量的な目標(利用者数、収支等)の設定、毎年度の評価等
⇒データに基づくPDCAを強化

○地域における協議の促進

- ・**乗合バスの新規参入等の申請**があった場合、国が地方公共団体に**通知**
- ・通知を受けた**地方公共団体は**、新規参入等で想定される地域公共交通利便増進実施計画への影響等も踏まえ、**地域の協議会で議論し、国に意見を提出**

地域公共交通網形成計画(H26改正)

(市町村又は都道府県(市町村と共同)が作成)
まちづくりと連携した
地域公共交通ネットワークの形成の促進

地域公共交通計画(今回改正後)

(市町村又は都道府県(市町村と共同)が作成)

まちづくりと連携した
地域公共交通
ネットワークの形成



地域における
輸送資源の総動員

メニューの充実やPDCAの強化により、
持続可能な旅客運送サービスの提供の確保

地域旅客運送サービス

公共交通機関



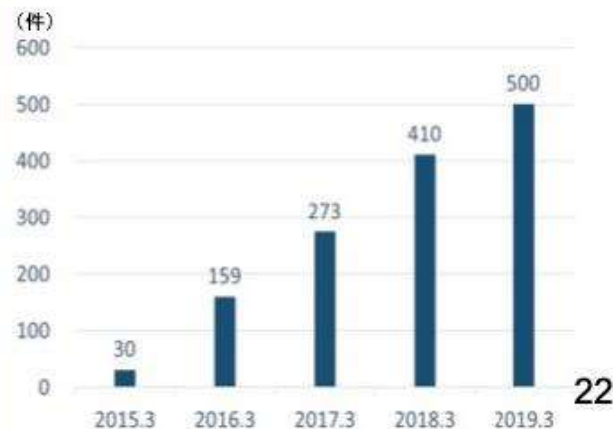
自家用有償旅客運送



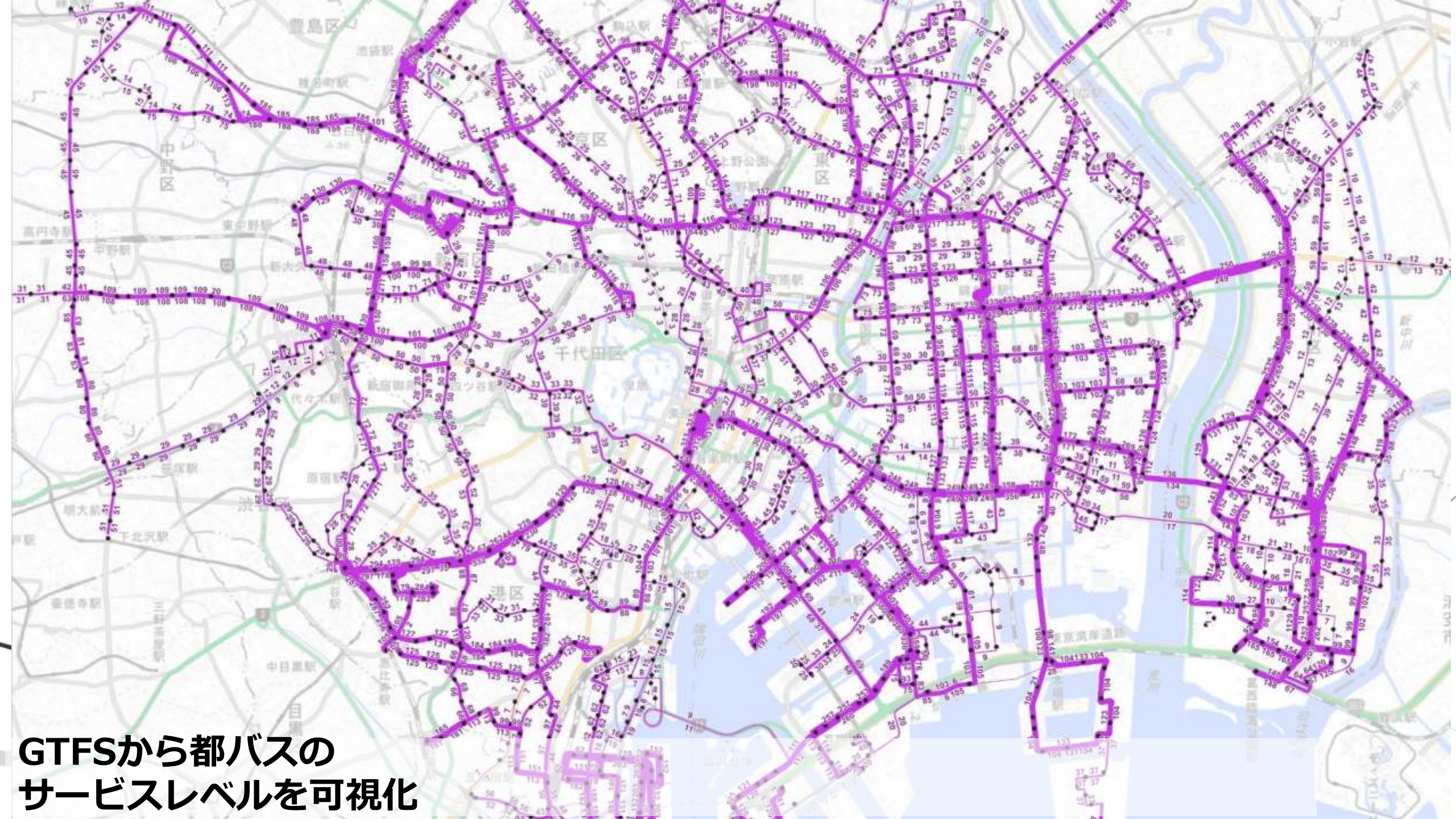
福祉輸送、スクールバス、
病院・商業施設等の送迎サービスなど

地域公共交通網形成計画の策定状況

現行の目標(2020年度末500件)は達成



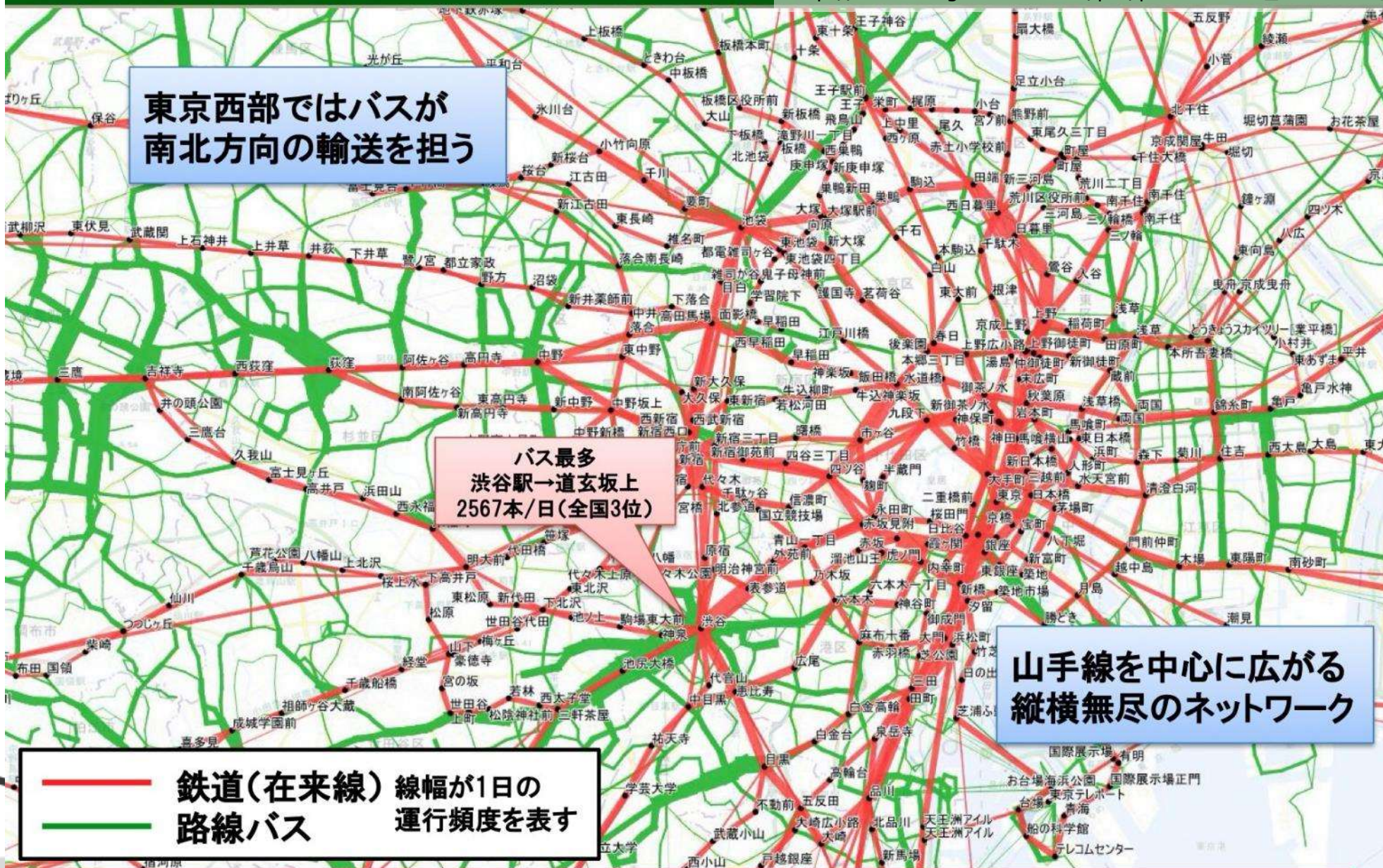
- ・ 2020年法改正で示された方針
- ・ 地域に「データ」という武器を
- ・ 運輸局と自治体の連携も制度化



**GTFISから都バスの
サービスレベルを可視化**

運行頻度路線図 (東京)

野津直樹, 太田恒平, 梶原康至, “運行頻度路線図でビジュアル化した都市内のバスと鉄道の役割分担の実態”, 第51回 土木計画学研究発表会, 発表資料, 2015年06月. http://consulting.navitime.biz/pdf/presentation_20150606_02.pdf



東京西部ではバスが南北方向の輸送を担う

バス最多
渋谷駅→道玄坂上
2567本/日(全国3位)

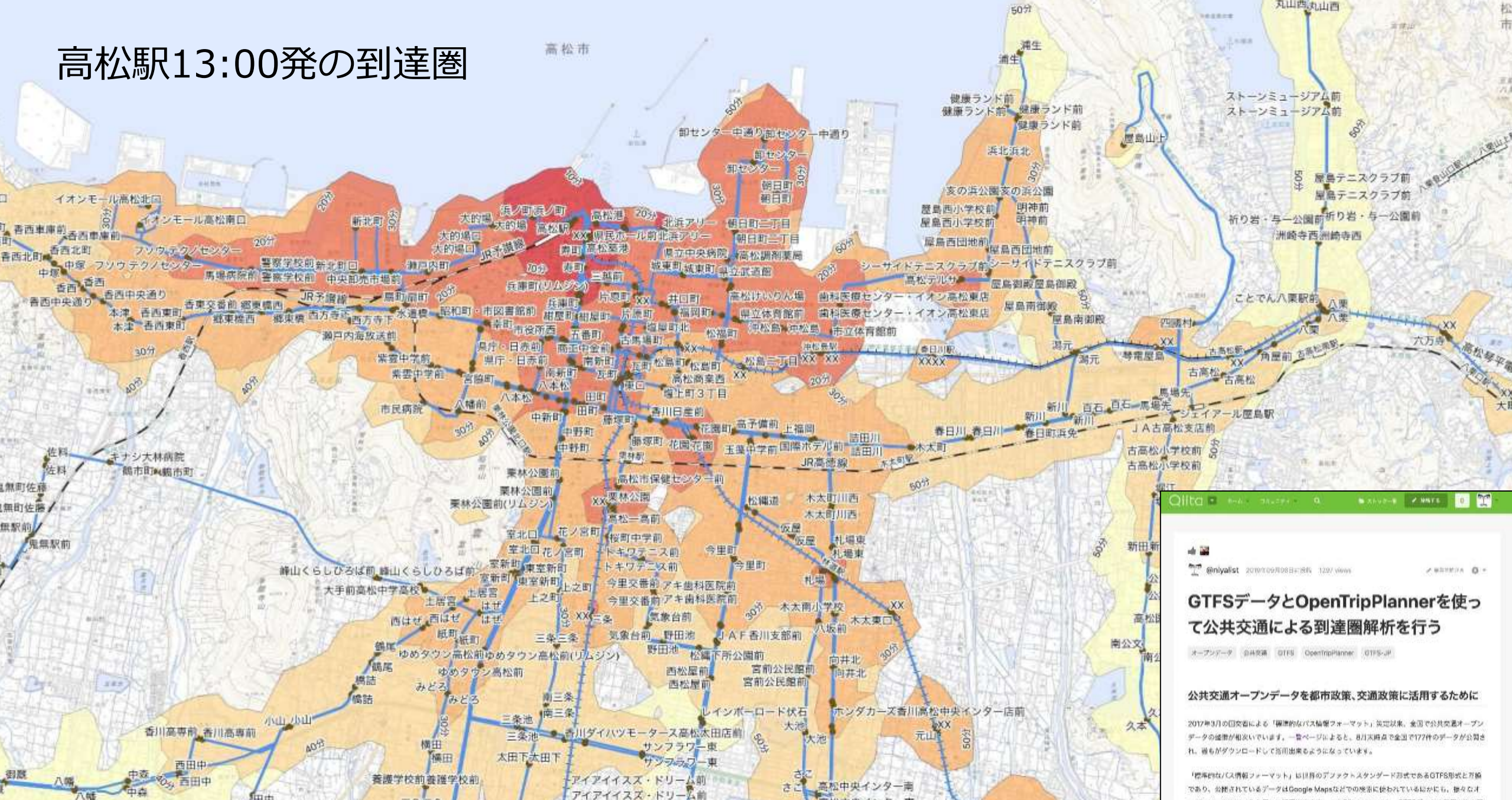
山手線を中心に広がる縦横無尽のネットワーク

— 鉄道(在来線) 線幅が1日の運行頻度を表す
— 路線バス

都市内の公共交通のサービスレベルを直感的に俯瞰

• X

高松駅13:00発の到達圏



Qlita

@niyalist 2019/10/09 08:51:05 129 views

GTFSデータとOpenTripPlannerを使って公共交通による到達圏解析を行う

オープンデータ 公共交通 GTFS OpenTripPlanner GTFS-JP

公共交通オープンデータを都市政策、交通政策に活用するために

2017年3月の国交省による「標準的なバス情報フォーマット」策定以来、全国で公共交通オープンデータの整備が進んでいます。一瞥ページによると、8月段階で全国で177件のデータが公開され、誰もがダウンロードして活用出来るようになってきました。

「標準的なバス情報フォーマット」は世界のソフトウェアスタンダード形式であるGTFS形式と互換であり、公開されているデータはGoogle Mapsなどの地図に使われているほかにも、様々なオープンソースのツールを用いて活用出来ます。このQlitaにおいても、GTFSデータの活用方法を解説する記事が多数投稿されています。

この記事は、公開されたオープンデータを地域の公共交通サービスの実態を把握するために利用

<https://qiita.com/niyalist/items/1d3941761df3969f16a2>